













# センターからのお願い

—みなさんがセンターを利用するときは—

埋蔵文化財センターは多くのみなさんが学習する場所です。一人ひとりが楽しく学習できるように、また、貴重な展示品を次の世代に伝えていくためにも以下のことを守りましょう。

-  ・カサは入り口のカサ立てに、荷物はトイレ側にある無料ロッカーに入れましょう。
-  ・写真撮影は必ず案内で許可を得てからしましょう。
-  ・メモをするときはえんぴつだけを使いましょう。
-  ・展示品には絶対にふれないようにしましょう(さわれる展示品は体験学習室にあります)。
-  ・走って展示品をこわしたり、他の人に迷惑をかけないように、ゆっくり歩きましょう。
-  ・他の人に迷惑をかけないように、小さい声で話しましょう。
-  ・飲食は建物の外でしましょう。
-  ・けがをしたり気分が悪くなったときは、案内まで知らせましょう。
-  ・質問や何か気づいたことがあれば、案内にたずねましょう。
-  ・「古代の森」では、植物の枝を折ったり、引き抜いたりせず大切に近づきましょう。
-  ・「古代の森」を散歩したあとは、クツのどろをおとし、手をきれいに洗ってから展示室を見学しましょう。
-  ・ごみは持ち帰り、いつもきれいに利用できるようにしましょう。

沖縄の歴史や昔の人々の生活を学びたい！それなら沖縄県立埋蔵文化財センターへ。  
詳しくは調査課までお問い合わせください。

## 沖縄県立埋蔵文化財センター

**開所時間** 午前9時～午後5時(入所は午後4時半まで)

**休所日** 毎週月曜日、国民の祝日(子供の日、文化の日を除く)  
年末年始(12月28日～1月4日)、慰霊の日(6月23日)  
※祝日と月曜日がかさなった場合は翌火曜日も休所、その他臨時休所あり

**入所料** 無料

**場所** 〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原193-7

**TEL** 098-835-8751・8752 **FAX** 098-835-8754

**URL** <http://www.maizou-okinawa.gr.jp>

**交通** バスターミナル発97番(琉大線)「附属病院前」下車



児童・生徒版  
総合案内

まいぶん  
いこう!



沖縄県立埋蔵文化財センター  
OKINAWA PREFECTURAL ARCHAEOLOGICAL CENTER



# 埋蔵文化財センターへようこそ —施設と仕事紹介—

みなさん、埋蔵文化財センターへようこそ。この埋蔵文化財センターは、沖縄県内の埋蔵文化財の発掘調査や研究を行ない、その成果をみなさんの学習に役立てる、沖縄県の施設です。

建物は2階建てで、県内各地の遺跡からの出土品の調査研究と保管は1階で行ないます（「過去を記録する」で紹介しています）。みなさんが沖縄の歴史や文化を出土品などを通して自由に学習できるのは2階です（「未来への宝箱」 「体験学習室・古代の森」で紹介しています）。



**金属製品処理室**  
金属製品の分析と保存するための科学処理を行ないます。



**収蔵庫**  
出土品を整理保管します。展示スペースもあります。



**図書室**  
全国各地の遺跡発掘報告書、考古学関連の図書を保管します。



**木製品処理室**  
木製品の分析と保存するための科学処理を行ないます。



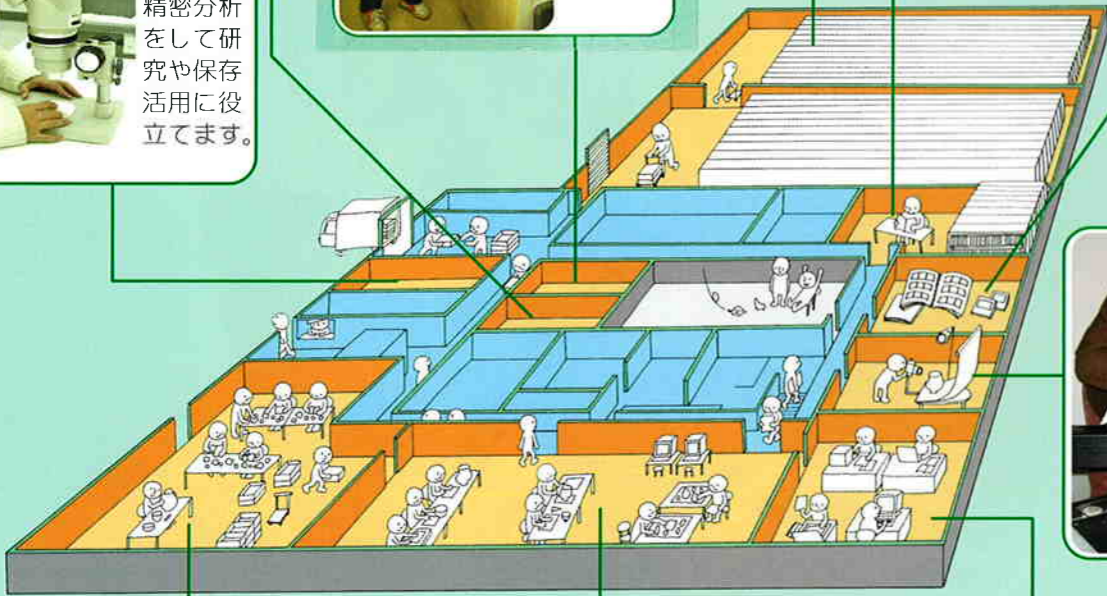
**精密分析室**  
様々な出土品の精密分析をして研究や保存活用役立てます。

**記録保存室**  
発掘調査の記録(写真、実測図)を保管します。



**撮影室**  
出土品の写真撮影をします。

## 1階



**水洗乾燥室・出土品整理復元室**  
出土品の洗浄と復元をします。



**実測製図室**  
出土品の実測図を作成します。



**調査室(調査課)**  
発掘調査と資料研究、みなさんの学習の手伝いをします。

埋蔵文化財センターでは、つぎの3つの仕事を行なっています。



1. 発掘調査をして報告書を作成する  
道路工事などで破壊される遺跡を事前に発掘調査し、報告書を作成します。



2. 資料や記録を整理、保管する  
沖縄の歴史や文化の研究に役立てられるよう、発掘で得られた出土品や記録(写真、実測図など)を保管します。



3. 発掘の成果を公開し、学習に役立てる  
発掘された成果を展示や講演会、体験学習などを通してみなさんの学習に役立てます。



**常設展示室**  
県内各地で発掘された出土品を、9つのテーマとジオラマを設けて展示をしています。



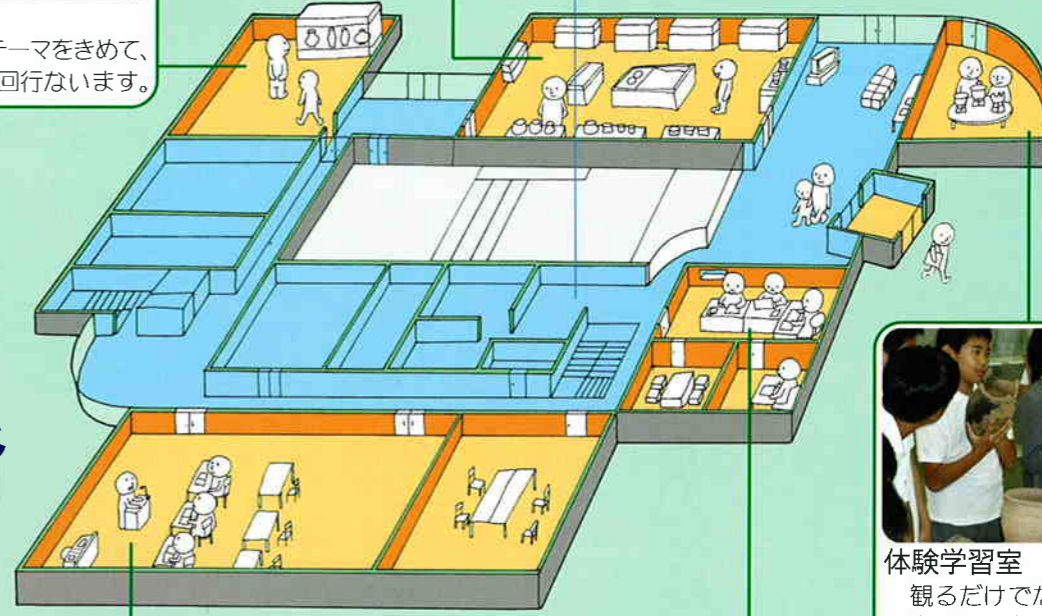
**企画展示室**  
発掘速報展やテーマをきめて、企画展示を年数回行ないます。

**展望室**  
センター周辺を展望できます。



**古代の森**  
施設北側に、古代沖縄の自然環境を復元しています。

## 2階



**体験学習室**  
観るだけでなく触って学習できる展示をしています。



**研修室**  
講演会や研修会を開催します。



**事務室(庶務課)兼案内**  
センターの予算や施設の管理、みなさんへの案内をします。





# 過去に出会う瞬間 -発掘のようす-

遺跡は地中に閉じ込められた「歴史の缶詰」みたいなもので、発掘はその「缶詰」を開けるようなものです。その中になにが閉じ込められているかは誰にもわかりません。発掘をすることで、はじめてその中身（歴史）がわかるのです。発掘はまさに過去に出会う瞬間です。

## 発掘の順序

### 1. 測量する

測量をして、発掘する場所を決める。グリッドという碁盤目状の網目を発掘面に設ける。

### 2. 掘る

層の重なりを確かめながら、慎重に掘り下げる。表土は攪乱されているので、パワーショベルで取り除く。

### 3. 遺物を取り上げる

いつ、どのグリッドの何層から出たか記録して袋に入れる。細かい出土品の場合は、ふるいがけをして取り出す。

### 4. 記録を残す

どのような場所に遺跡が出来たか、層の重なりや出土品の状況はどうかを実測図と写真に記録する。毎日の発掘日誌も書く。

発掘はやり直しができない

発掘調査を行うときは、なぜ記録を残さないといけないのでしょうか。

それは、発掘をするということは、遺跡を壊すことになるからです。壊してしまった遺跡の発掘をやり直すことは出来ません。ですから、発掘から得られたことは、できる限り多くの情報を記録として残さなければなりません。



首里城継世門発掘のようす



みんなが休けいする場所

パワーショベルで大きく掘る

高いところから遺跡全体を写真にとる

掘り出した土を運ぶ

出土品を場所ごとに袋に入れる

見学者

観察記録や色々なことをメモにまとめる

標高と遺跡の位置をはかる

「平板」をつかって実測図をかく

遺つづを正確に計り実測図をかく

道具をつかって出土品を細かい取り出す

ハケで土をおとす



# 過去を記録する - 報告書作成のながれ -

発掘調査で得られた出土品は、過去に何がおこったのかなど、たくさんのお話をしてくれま。それらのことを調査研究し報告書を作成して記録に残します。出土品は大量で、しかもその多くは細かい破片です。これらを辛抱強くつぎ合わせてもとの形にしていきます。そのため、資料整理作業には発掘にかけた日数の数倍の時間がかかります。

## 1 洗浄

出土品は、泥で汚れています。出土品がよく観察できるように、泥を洗い落とします。

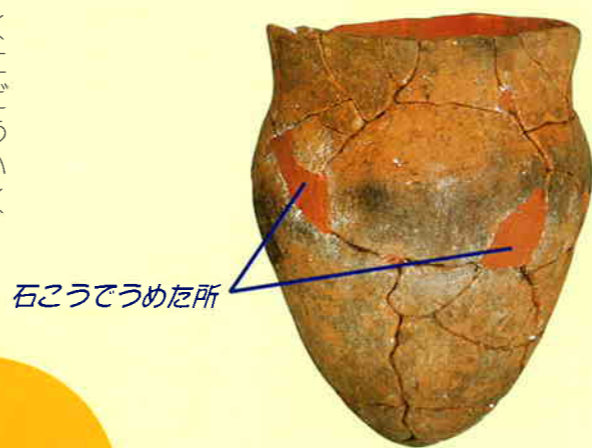


## 2 ナンバーリング

出土品はほとんどが細かく割れた破片です。迷子になっても、どの遺跡のどの場所から出土したかわかるように“名札”を書きます。

## 3 接合・復元

一つひとつの破片がくっついて大きな破片になると、元々の形がどうだったかわかるようになります。足りない部分は、石こうでつくりま。



石こうでうめた所

復元が完成した土器



## 4 実測・拓本

出土品を細かく測って、そっくりそのまま描きます。肉眼では確認しにくい細かい模様などは、拓本で写しとります。



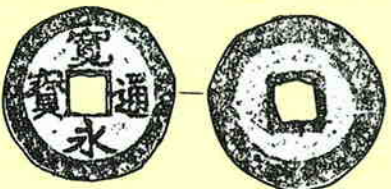
### 実物大のかけら

筆とスミテ、こんなに小さくナンバーを書きこみます。



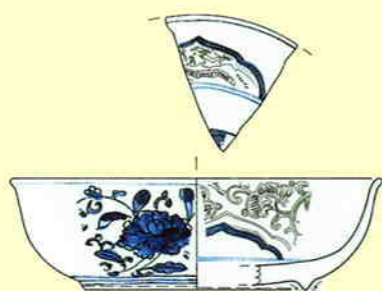
### 拓本した古銭

古銭(昔のお金)の上に半紙をのせて、墨をしみこませた布で、軽くおさえると、模様が浮き出てきます。



### 清書した実測図

色・ 모양なども、そのまま描きます。



## 6 図版、観察表、文章などの作成

実測図と写真の図版、細かい観察の文章を作成して報告書を完成します。



## 資料整理のみなさんのインタビュー

報告書作成のための資料整理は、地味で根気のいる作業でとても大変です。大量の出土品のナンバーリングやくっつくかくつかないかわからない復元など、終わりがよく見えない作業に嫌気がさすときもあります。ですが、この資料整理の仕事は、沖縄の歴史を明らかにするということ、とてもやりがいのある仕事だと思います。今まで知られていなかった歴史が明らかになったりすると、この仕事をやってよかったな、と思います。

## 5 写真撮影

実測図とあわせて比較できるように写真を撮ります。



## 7 報告書の発送

教育委員会、大学図書館、市町村図書館等に発送して、多くの方が発掘の成果を利用できるようにします。



## 報告書完成!

完成した報告書の数々。200ページをこす分厚い報告書になるのがほとんどです。





常設展示室では、沖縄県内の遺跡から出土した、たくさんの出土品を9つのテーマとジオラマ模型で展示しています。私たちの祖先がどのような生活をしてきたか、掘り出された出土品の一つひとつが皆さんに語ってくれます。それは祖先が私たちに残してくれた未来への宝箱です。

## じっくり観察することが理解する第一歩

展示室にはたくさんの展示物があるので、一度に全てを理解しようとするのはとても難しいです。まずは、みなさんが“ちょっと面白いな”、と思った展示物一つだけを選んで、じっくりと観察することからはじめましょう。それはどのような形をしていますか？大きさはどうでしょうか？色や模様はありますか？このように、みて分かることから一つひとつ確かめてみましょう。だんだんとその展示物の特徴がみえてきます。この観察の積み重ねから、みなさんがみている展示物が一体何なのか？、何に使われたのか？、どのように作られたのか？などの疑問が自ずと分かってくるはず。まずは一つひとつの展示物をじっくりと観察すること。それが展示物を理解する第一歩です。



### 貝の道

弥生時代になると、九州では、沖縄産の貝の腕輪が流行しました。なぜでしょうか？それらをどのようにして手に入れたのでしょうか？



### 住まいと道具

コンクリートの家に住み、さまざまな電化製品に囲まれて暮らしている私たちですが、古代人の生活はだいぶ違ってました。



### 土器で見る沖縄先史時代の文化圏

沖縄の古代人はどのような地域と交流していたのでしょうか？土器の研究から分かった交流のようすは興味深いものがあります。



### 沖縄にはいつごろから人が住みついたのか

初めて沖縄に住んだ人たちは誰なのでしょう？何年前のことなのでしょう？彼らはどのような生活をしていたのでしょうか？その謎に迫ります。



### 沖縄新石器時代人は、どういった所に住んでいたのか

沖縄の古代人は、どのような場所を選んで生活していたのでしょうか？遺跡のある場所を調べてみましょう。



### 2000年前の琉球のムラ

九州と貝の交流を行っていた2000年前の沖縄のようすを模型で再現しています。つぎのページで紹介しています。



### グスクの移り変わり

各地にアジと呼ばれる支配者が現れ、グスクと呼ばれる「城」を造り争うようになりました。石の積み方でグスクの移り変わりが分かります。



### 再現された古代の食卓

古代人は、自然の恵みを十分に受けた食事をしていました。どの食べ物が似てどの食べ物が違うか、私たちの食事と比べてみましょう。



### 海外交易を語る貿易陶磁器

15、6世紀の沖縄は、東アジア、東南アジア諸国との間の交易で重要な役割を果たしました。国際的に重要な役割を果たせた理由は何だったのでしょうか？



### 沖縄の古窯

以前は、沖縄各地で独自の焼物が作られていました。現在伝わっている壺屋焼以外に、どのような焼物があったのでしょうか？



### 先史時代の宮古・八重山諸島

先史時代の宮古・八重山諸島のようすはどうだったのでしょうか？どうやら沖縄本島とは少しようすが違ってました。





# 2000年前の沖縄にタイムスリップ—ジオラマ—

およそ2000年前の6月のよく晴れた昼下がり、沖縄のある島のムラに、九州方面から米、麦、豆、鉄の斧、銅の矢じり、布などをもった人々がやってきました。ムラの長老は、さっそく彼らと当時九州で人気のあった腕輪の材料であるゴホウラやイモガイなどと交換の交渉を始めました。

古代の沖縄を再現したこのジオラマ(模型)で、古代人の生活をのぞいてみよう!!

こまかいところまで  
ほんものそっくりの  
ジオラマ見においでよ!



Q この草はなに?なにをとっているの?



Q 魚や貝はどうやってとったの?



Q もぐってなにをとっているの?



Q サンゴ礁ってなに?



Q この人たち、なにを調理しているの?



Q どのようなところに住んでいたの?



Q これってなに?



Q この人たち、なにをしているの?



Q 首や腕についているアクセサリーはなに?



# 古代を体験しよう! —体験学習室・古代の森—

“出土品にさわってみたい”、“土器や石器を作ってみたい”、“古代人の生活を体験したい”。やってみたいは、たくさんあります。みなさんは、どんなやってみたいがありますか?「体験学習室」「古代の森」はみなさんの体験したい、ができる場所です。体験を通して、古代人の知恵を学びましょう。

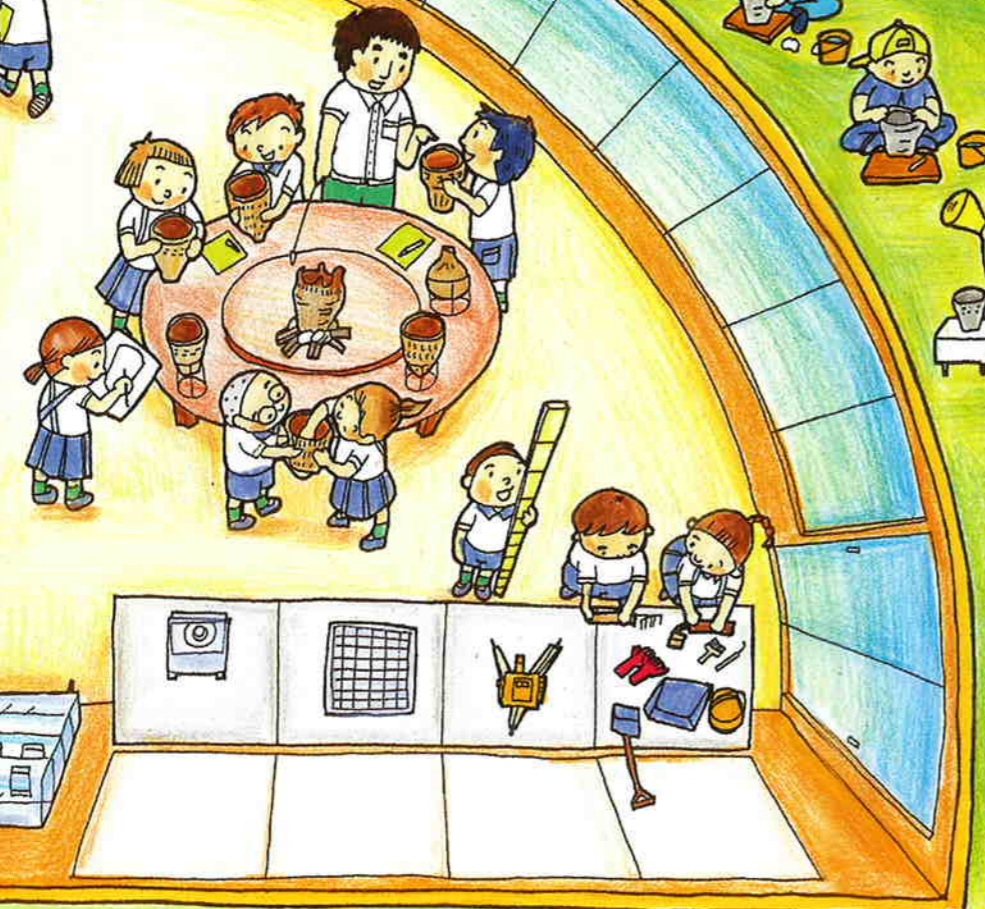
## 他目的広場

土器作りや火起こしなどの体験を行っています。



## 体験学習室

発掘で必要ないろいろな道具、復元された土器などを、見るだけでなくさわって学ぶことができます。



## 古代の森

自然の恵みを利用して生活していた古代人の自然環境を復元しています。



## 堅穴式住居

堅穴式住居を復元して、古代人の生活を体験する宿泊学習を行なう予定です。



復元された堅穴式住居 (与那城町仲原遺跡)

## 体験することは理解すること

みなさんの多くは、土器作りや火起こし体験をしたことがないと思います。展示されている土器をみて、“これならばくにも作れそうだな”とか“こんな簡単に作れるよ”と思いませんか。火起こしについても“木と木をこすりあわせて起こすでしょ”と分かったつもりになっていませんか。でも実際には、やってみないと分からないと思います。はたして本当はどうなのか、体験を通してみなさん自身が発見して理解して欲しいです。





# まいぞうぶんかざい なぜ?なぜ? &でてきたもの なに?なに?

## Q どうして埋蔵文化財(遺跡)は大切な?

**A** 埋蔵文化財は昔の人たちが生活した跡(遺跡)です。その跡を発掘して出てきたもの(土器や石器、骨製品や貝製品、イノシシなどの動物の骨や魚の骨、貝殻など)を細かく調べると、その時代の人たちの生活のようすが分かります。それは昔の人たちがどのように地域の自然と向き合い、生きていたのかを示すもので、いろいろな工夫や生活の知恵がそこにあります。このような古代人たちの知恵を学ぶことにより、未来への道筋も確かなものになっていくわけです。だから、埋蔵文化財はこれからも大切に残していかなければいけないものなのです。



## Q 埋蔵文化財(遺跡)はどれだけあるの?

**A** 現在のところ、沖縄本島及び周辺離島、宮古・八重山諸島を含めた県内には大体1,600カ所の埋蔵文化財が見つかっています。これは、沖縄に人間が住み始めた頃(旧石器時代)から100年ぐらい前までの人たちが残した埋蔵文化財の数です。



## Q 埋蔵文化財(遺跡)を発見したらどうすればいいの?

**A** 埋蔵文化財は昔の人たちが生活していた場所なので、その時に使った道具や食料の残りものなどがたくさん出てきます。土器や石器、貝殻や骨などが多く散らばっている場所を見つけたら、そこで拾ったものを持って、近くの市町村教育委員会へ知らせましょう。



## Q 埋蔵文化財(遺跡)の調査は毎年どれだけあるの?

**A** 最近の4~5年間は、沖縄県内で大体40~50カ所の遺跡が発掘調査されています。そのほとんどは、道路や家、公園などをつくる工事のために壊されてしまうため、調査されます。



## Q だれでも発掘調査できるの?

**A** 埋蔵文化財の発掘調査は誰でもできるわけではありません。多くの場合は、都道府県や市町村教育委員会の文化財担当の人が中心になって発掘調査を行っています。発掘調査を行う人は、大学などで考古学を勉強した人で、調査報告書を作成することができる人です。



## Q 土器は何に使ったの?

**A** 土器は、食べ物を煮炊きするための「なべ」や食べ物や飲み物を保存する「つぼ」などとして使われました。「なべ」として使われた土器は、口が大きく開いているので、みなさんも簡単に「なべ」として使っていたらと想像できるでしょう。実際、遺跡から見つかる土器片には、焚き火でついた黒いスス痕がうっすらと残っています。「つぼ」として使われた土器は、口が小さくすぼまっいて、口をふさいで、食べ物や飲み物を保存するように工夫されています。「つぼ」には「なべ」として使われた土器にある黒いスス痕はもちろんありません。



## Q 土器や石器はどうやって作ったの?

**A** 土器は、粘土で形を作って乾かしたあと、焼いて仕上げました。詳しくは『古代体験マニュアル1』(沖縄県立埋蔵文化財センター発行)に述べていますのでそれを見てください。  
石器は、様々な石を利用して作りました。石斧は、川原の石を材料にして砂岩のような柔らかい石で磨いて刃を作りました。鎌はチャートや黒曜石というガラス質の硬い石を使って、打ち欠いて形を作りました。同じ石器でも種類によって材料や作り方を変わって作りました。



## Q 古代人は何を食べていたの?

**A** 古代人は、生活の場所を取り巻く海や山から貝や魚、イノシシなどを捕まえて食べていました。貝塚と呼ばれる古代人の「ごみ捨て場」には、これら貝殻や骨が見つかります。ドングリのような植物も集めて食べていたようですが、腐ってしまいやすいため、ほとんどの遺跡では発見されませんでした。しかし、最近、宜野座村の前原遺跡などで縄文時代の人たちが残したたくさんの木の实がカゴに入れられたまま発見されました。

